

質問時間 60分

広瀬 弘二 議員

合併協議は中断すべき

基本的に合併が必要だという認識です

合併問題について

問 新聞報道によると、8月上旬に富里市などとともに1市4町として成田市に合併協議申し入れ書を提出したとあります。これに対して成田市長は、下総・大栄地区の課題を解決してから考えようとしたこととあります。多古町長として、成田市長がどのような考えから即答を避けたと考えるか。また、「広報たこ」には本町は町民の意向を最優先して合併に取り組むとありましたが、町民の意向はいつどのように確認したのか。さらに、合併によって多古町民が得ること及び失うことについての考えをお伺いします。

町長 1市4町首長懇談会は成田市長も了承のもとで出発したものです。毎回富里市長から成田市長に経過を報告しています。私がこれまで公的・私的に各団体や町民と意見交換をした中では合併を望んでいる方がほとんどでした。町民の70%以上が空港圏の合併を望んでいた平成15年11月当時の町民意識調査の結果が変わることなく続いていると考えます。

合併のメリットとしては、窓口利用施設の増加、専門部署の設置によりサービスが多様化、高度化すること、広域観点に立ったまちづくりと施策ができること、議員や職員の減少など行財政の効率化が図られること、地域のイメージが向

上することなどがいえます。

問 合併申し入れ書の柱は3つあると思います。千葉県の合併基本構想に沿っている、通勤通学商圏ともに成田市と一体化している、千葉県経済の先導・日本の国際競争力を担う国際空港を発展させる、と非常に気宇壮大なことが書かれています。しかし、県の合併構想はそれに関連する自治体の自主性を損ねるものではないという取り決めの中で作られているはずで、また、最高裁の判決でも自治体の条件として「住民が経済的、文化的に密接な共同生活を営み、共同体意識を持っている」という社会的基盤」を持つていることが必要だと述べています。

私は、現状では合併に反対です。何度も協議を申し入れてもなかなか応えてくれないのに申し入れを繰り返していたのでは、多古町民は自分の町は情けない町だと思ってしまう。合併協議はいったん中断して客観情勢が熟したときに改めて考えることにする、多古町が生きていくための施策を本気でやっていくとすべきではないでしょうか。

町長 合併問題については1町ではできません。周りの雰囲気があり、そういう雰囲気になった現実があるわけで、私は中断すべきではない、推進すべきだと認識しています。首長の議論ももちろんですが、議員さん方の議論も深めていただき、方向性を定めていくことだと思います。



合併の申し入れをした成田市（市庁舎）

今後とも首長として

は基本的に合併が必要だという認識で行動していくというところで、ご理解をいただきたいと思います。

〔平成20年9月29日、成田市より合併は当面受け入れできない旨回答あり。〕

質問時間 90分

加瀬 芳廣 議員

地上デジタル放送のメリットは

ハイビジョン映像、放送サービスの高度化などがあります

地上デジタル放送とNAAへの対応について

問 地上デジタル放送は、誰の責任で何を目的に行われメリットについてはどう認識していますか。

町長 電波は無限に使えるわけではなく、一定の周波数のところだけで、現状は少しの間隔もないほど過密に使用され、アナログ放送のままでチャンネルが不足します。そのためデジタル化によって周波数に余裕をつくり、今後の情報化社会に有効利用していくこと、デジタル化によりハイビジョン映像が楽しめるインターネット接続が可能で、放送サービスの高度化、情報化基盤と多くのメリットがあります。

問 地上デジタル放送の場合、航空機による電波障害とNAAの対応、下総光局、佐原局を含めて、町はどう認識していますか。

町長 地上デジタル放送に移行された場合、NAAは航空機によるフラッター障害は発生しないとしております。下総光局、佐原局から電波が出る予定の来年2～3月頃に、航空機による障害調査を行うとしているところで、航空機による影響がなければ、共同受診アンテナによる電波障害対策は終了します。また、下総光局、佐原局は現在放送事業者に譲渡され、地上デジタル放送中継局として利用され、来年2月に地上デジタル放送電波が出される予定です。



航空機による電波障害はないのか

騒音問題等について

問 成田国際空港都市づくり推進会議に対し、NAAは30万回容量可能な空港と示しました。飛行コース、騒音コンターはどうなりますか。また、成田境界論によると航空騒音の低下が予想されると聞きます。状況をお聞かせください。

町長 成田国際空港は、現在発着回数が22万回という制限に加え、内陸空港という特殊性からこれ以上の発着を増やすことは難しく限界ではないかの考え方から、成田空港境界論が出ました。羽田空港の国際化が議論され、成田空港の国際拠点空港としての地位が危ういという危機感から、都市づくり推進会議が空港周辺の9市町により設置されました。容量拡大による経済波及効果等

プラス面について検討、反映させていくこととし、騒音等マイナス面においては、国、県、市町、NAAによる4者協議の場で議論し、同時並行して進めるとしております。発着回数の拡大と航空機の騒音低下が騒音にどう影響するかについては、町として把握しておりませんが、最終的には予想騒音コンターとして提示されるものと考えております。

問 今後の共生委員会の存続と一鉄田地区の隣接区域設定について伺います。

町長 千葉県、国土交通省、NAA、共生委員会の4者で共生スキームプロジェクトチームを立ち上げたところで、新たな共生スキームは当然必要なことと考えており、内容を重視しております。一鉄田の隣接区域については、北伸平行滑走路の供用開始後に見直し、必要性について共生財団が検討することとしております。現段階では、検討されていませのでご理解をいただきたいと思います。

※1 空港周辺の騒音分布状態を表した地図
※2 空港と地域が共に同じところで暮らすための構想や計画